自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900078		
法人名	社会福祉法人 旭川福祉事業会		
事業所名	グループホーム ゆとり(つつじ)		
所在地	旭川市永山4条3丁目1-20		
自己評価作成日	平成27年1月	評価結果市町村受理日	平成27年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900078-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成27年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大雪山連峰に囲まれ、近くには観光名所である旭山動物園があります。四季に合わせ、ご利用者の意向を伺いながら、職員が色々と企画して外出し、冬は外出が難しいので屋内行事を行い、メリハリをつけながら楽しく生活していただいています。個々のかかりつけ医や当グループホームの医療連携機関及び歯科往診等と連携をとり、安心して過ごされるよう取り組んでいます。ご利用者の身体的・精神的状況に重点を置き、個別にケアを行うことで残存機能の現状維持・向上を図れるよう努めています。地域包括支援センターや北海道認知症グループホーム協会及び行政等の研修に参加し、情報共有や職員の質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<日常的な外出支援>
地域の老人クラブ活動でストレッチ体操やカラオケに出かけたり、ボランティアの協力を得ながら春光台公園等への花見や紅葉見物、博物館や銀座商店街の七夕祭り参加、納涼祭では保育園児を招待して交流を図るなど普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。

<一人ひとりの力を活かした役割、楽しみごとへの支援>
張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かしながら茶碗洗いや食器拭きなどの役割や敬老会、新年会、クリスマスなどの開催、保育園児との交流の機会を作るなど楽しみごとや気分転換等の支援をしていると共に毎日の体操や玉投げ、魚釣りゲーム等のレクリエーションで身体機能の維持・向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐ 1. ほぼ全ての利用者の ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐ 1. ほぼ全ての家族と ☐ 2. 家族の2/3くらいと ☐ 3. 家族の1/3くらいと ☐ 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐ 1. 毎日ある ☐ 2. 数日に1回程度ある ☐ 3. たまにある ☐ 4. ほとんどない	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐ 1. ほぼ毎日のように ☐ 2. 数日に1回程度 ☐ 3. たまに ☐ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐ 1. 大いに増えている ☐ 2. 少しずつ増えている ☐ 3. あまり増えていない ☐ 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐ 1. ほぼ全ての職員が ☐ 2. 職員の2/3くらいが ☐ 3. 職員の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての家族等が ☐ 2. 家族等の2/3くらいが ☐ 3. 家族等の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念である『ご利用者とともに、生きる力と喜びを、地域に安心と信頼の輪を、私たちは常に可能性を追求します』を、毎朝ミーティング終了後に職員全体で唱和し、実践につなげています。	毎朝のミーティングでの唱和や業務推進会議等を通じて、理念を共有し、その実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で町内会の委員の方に参加していただき意見を伺ったり、廃品回収の協力に加え、本年度より老人クラブの活動に少人数ながら参加もしている。	地域の廃品回収事業や老人クラブへの参加、保育園の来訪や運動会見物、花火大会やお祭りに来ていただくなど地域の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会の委員の方に参加していただき当グループホームの状況説明の中で、認知症の症状(特にBPSD)の事とその対応について話させていただいている。また、最近の高齢者福祉の状況についても話させていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た内容について、特注すべき点があれば業務推進会議で職員に報告しサービスの向上を図ったり、ご利用者の意見反映から行事等を計画したりしている。	年6回を目安に運営推進会議を開催し、日常生活の様子や事業所の取り組み状況等の具体的内容について話し合い、そこでの意見を運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症や運営上不明な点、事故発生時の報告等電話による確認や報告及び文書報告を行い、連携に心掛けている。	市担当者とは、日常業務を通じての報告、相談等で情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	こちらのユニットの玄関は日中帯は出入りが自由に出来る様開錠している。夜間帯は防犯の観点から両ユニット施錠している。身体拘束については、現状でそのようなケースが発症していない。	身体拘束廃止委員会の研修を通じて指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	任意であるが、職員への研修参加を助成し、重要性や知識向上に努めている。また、職員同士でもチェックを図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	任意であるが、職員への研修参加を助成し、重要性や知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご利用者やご家族に対して十分に説明を行い、入居や退居される際の不安やトラブル除去に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。苦情相談受付窓口(苦情解決責任者含む)を掲示している。また、ご利用者やご家族からの要望等があれば業務推進会議や、担当者会議等で反映を図っている。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように意見箱を玄関に設置している。また、第三者機関への苦情等の申し出先も明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務体系で全員が不規則勤務という状況もあり、連絡ノートを活用しながら職員間(管理者と介護員、介護員同士)の連携を図っている。また、職員とコミュニケーションを図れるよう努め、業務推進会議等で意見や要望を聞く機会を設けている。	連絡ノートの活用や業務推進会議で職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	今後は、職員間での情報の共有について、より良い共有方法について、検討しているので、その実践に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態や能力に応じて、雇用形態(パートから准職員及び准職員から正規職員への登用)を考慮している。部分的に人事考課制度を取り入れている。一部の資格取得の助成制度を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	任意であるが、外部研修への参加に取り組み、要参加費の場合は助成している。就業しながら資格取得(介護福祉士・介護職員初任者研修等)の為、試験や講習参加が可能なように考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の研修に参加し、同業者等の交流の場を作り、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で、ご利用者より要望等の話を十分に聞き、安心感が持てるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接で、ご家族より要望等の話を十分に聞き、安心感が持てるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族への相談では細かい部分まで傾聴し、ご希望があれば施設見学等も行い、必要なニーズを支援していけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介助や業務の中でもコミュニケーションとして会話等を行い、その中でご利用者の想いや意思を引き出すよう心掛けている。その反面で特定の方が多くなってしまいがちな部分もある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に飲み物等を提供し、その際にご利用者の近況を伝える等工夫している。その中でご家族が不安に思っていることやこれまでの習慣等聞き出し、その後の介助や声掛けに活かしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気兼ねなく外出、外泊、面会等が出来るよう努めている。また、敬老会や新年会では、行事としてご家族を招いて会食や談笑できる場の提供に努めている。	新年会や敬老会開催で家族との交流の機会を作ったり、銀座商店街の七夕祭りや季節毎にお花見、紅葉見物に出かけるなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操等は、集団で全員そろって行うよう努め、交流できるように配慮している。 ご利用者間での口論等あり、職員が早期仲裁に入っている。また、その内容を職員全体で共有し、全体で問題対処に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され契約終了となっても、ご家族より気軽に相談できる場になれるよう努めている。入院に伴い退居(GH復帰不可)であってもお見舞いに伺い、ご家族への相談等にも努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者個々の希望全てに対してサービス提供を行うことはなかなか出来ないが、コミュニケーションを図りながら可能な限り意向に近づけられるよう、アセスメントやカンファレンス、業務推進会議等で検討を行っている。	一人ひとりの意向を把握しながら、ボランティアの協力を得て演芸や生け花、茶道等の趣味への支援や折り紙や百人一首、自宅での外泊などの楽しみごとへの支援等で本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接やアセスメントに把握を行っている。また、詳細等のご利用者やご家族とコミュニケーションを図りながら把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録票にて記載され、情報共有に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、状態変化があった場合はその都度対応し、業務推進会議やカンファレンス等で検討し、介護計画や業務試行に反映を図っている。	センター方式を活用して本人・家族の意見や要望、医師・看護師からの指導や助言、モニタリングやカンファレンスを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や連絡ノートを活用しながら、ケア内容や介護計画の見直しに活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望を把握し、可能な範囲内で柔軟な対応を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当グループホーム地域にある老人クラブの活動(ストレッチ体操、カラオケ)に参加者は限られるが可能な限り参加できる様支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者及びご家族の希望や要望に沿ったかかりつけ医の受診や、医療連携機関医師の往診、同看護職員による健康チェック、歯科往診の利用の支援に努めている。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師や歯科医師の往診や訪問看護師の利用、日常の健康管理で適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームに看護職員の配置はないが、ご利用者の体調異変時には、その都度医療連携機関に報告、指示受けを行い適切な対処を行っている。昨年11月より医師の変更があったものの、医療機関の変更はなく、引き継ぎも順調に行われていたことから混乱はなかった。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医及び医療連携機関と連絡を密に行い、状態把握(定期的週1回は入院先へ状態確認を兼ねてお見舞いに伺っている)に努めている。また、職員への状態報告や個人記録に記載し、情報の共有を図っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する指針を作成し、入居前に説明。重度化した際は、ご家族と医療機関(主として医療連携機関)との話し合いの中で当グループホームの管理者が立会い、ご利用者にとって良い支援に結び付けられるよう努めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の一人勤務に不安を感じるが、応急手当や初期対応は医療連携機関の看護職員から指示を受けて対応する。不安な場合は管理者へ連絡し、来訪する形になっている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練を実施。運営推進会議にて非常時には地域の協力を要請している。災害時に建物が使用不可能な場合、当法人の介護保険施設へ一時避難が可能である。	日中、夜間を想定した総合避難訓練を年2回実施している。また、地元の人々の協力を得られるよう体制の構築に取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや人格に配慮した言動を心がけている。ただ業務に追われている際に配慮出来ない事もある。また、職員間の情報共有で会話する際に、場所が不適切な事もある。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけがないよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護の中でも、ご利用者が自己決定出来る様に、様々な選択肢を用意し、ご利用者の話を傾聴することで自己決定しやすいよう努めている。しかし、自分の意思表出が困難な方へは、職員がその方を勧誘して決めていることも正直ある。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活で極力ご利用者のペースに合わせて支援するようにしているが、入浴や食事時間、行事等職員の業務の都合にご利用者の生活を合わせていただいている部分もある。また、BPSDの状況によっては、本人の想いに答えられない現実もある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者が自ら服装等選択できる方にははしていたが、出来ない方には、その服への固執がなければ同じ服の繰り返しにならない様配慮しながら支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているものの、ご利用者の希望や好評不評のメニューを委託会社の栄養士伝えることで反映していただいたり、お茶やおしぼり等食事前準備、下膳、茶碗洗い・拭き等をご利用者と共に行っている。	職員と一緒に食事の準備や茶碗洗い、後片付け等を行っている。また、水分・食事の摂取量を把握している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に毎日つけることで、食事及び水分摂取量を把握し促していく。絶対的に拒否が続く場合は医療連携機関とも話し合い状況によっては、点滴等の医療行為による対応もしていただいている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔清潔が出来る方については声掛けのみになりがちである。介助の方や認知症重度の方には拒絶されることもあるため、時間をおいて再度声掛けするも、更なる拒否があればそのままの場合もある。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	移動等支援が必要な方については訴え時にその場で対応しているため失敗も少ないが、訴えない方については、定時や行動周期を見て対応しているものの、すでに失敗していることも少なくない。	一人ひとりの力や排泄のパターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のタイミングを記録等から追って対応しているが、水分摂取や運動等から自然排便のタイミングを伺っているが、出ない方も数名おり、医師と相談し下剤に頼ってしまうこともある。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者個々のタイミングに合わせてはおらず、こちらで曜日や時間帯を決めているものの、ゆっくり入浴していただけるよう配慮している。拒否される方もいらっしゃるが、時間や日を変更して入浴していただいている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に合わせて、拒否のある利用者にも対応した柔軟な入浴支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況や要望、本人の体調面を把握し、可能な範囲内で柔軟な対応を行っている。屋間に休まれる方については、時間を決めて休んでいただくことで、可能な限り昼夜逆転にならない様、配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報等は個人ファイルに綴り、変更や増減のチェックを行っている。薬のセットを複数回チェックすることと、与薬の際には間違いのないように氏名といつの薬かを声に出し確認して行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ、茶碗洗い、食器拭き、テーブル拭き等強要することなく、手伝い等していただいている。また、毎日の体操やレクリエーションの中で玉投げ、魚釣りゲーム等行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に花見や紅葉、小グループ外出等外出活動出来る期間で活動している。夏場は外気浴にも取り組んでいる。また、今年度から不定期ではあるが、地域の老人クラブ活動(ストレッチ体操、カラオケ)に不定期ではあるが参加できる方を連れて参加している。ご家族が希望される外出については、ご家族が連れて行くことで自由に外出・外泊していただいている。	地域の老人クラブ活動でストレッチ体操やカラオケに出かけたり、ボランティアの協力を得ながら春光台公園等への花見や紅葉見物、博物館や銀座商店街の七夕祭り参加、納涼祭では保育園児を招待して交流を図るなど普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預り金として管理者が管理している。過去には一部自己管理出来ていた方もいたが、現在のご利用者は本人からも自己管理に対し後ろ向きである。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者個々の居室に電話が設置可能となっているが、現在電話を設置あるいは携帯電話を所持されている方はいない。しかし、当グループホームの電話を利用して(番号かけるのは介助で)ご家族と連絡を取り合う方はいらっしゃる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて装飾を変えている。行事等で撮った写真も壁に展示し、ご利用者同士で「あんなことあったね」と会話したり、ご家族来訪時にご本人や職員と会話するきっかけになっていた。基本的に共有スペースでご利用者個々人のこだわりの配置(食堂やホールのソファとテーブル)があるので、極力動かさないようにしている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間は広く、ゆったりとしていて清潔感が漂い、季節毎の飾りつけや行事参加の写真が飾られるなど生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを囲んで、1人掛けソファと3人掛けソファを設置し、ゆったり寛げるスペースを設けている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前に使用されていた馴染みのある箆笥や椅子、花瓶、写真等を持参していただき、安心して落ち着きやすい居室になるよう支援している。	居室には、使い慣れた家具や花瓶等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、玄関等に手すりを設置し、移動の際は安全に自力歩行が出来る様に指示していただき、支援している。一部居室にも手すりを設置し、残存機能維持につなげている。食器拭きや居室清掃も共に行っている。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900078		
法人名	社会福祉法人 旭川福祉事業会		
事業所名	グループホーム ゆとり(ななかまど)		
所在地	旭川市永山4条3丁目1-20		
自己評価作成日	平成27年1月	評価結果市町村受理日	平成27年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900078-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成27年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大雪山連峰に囲まれ、近くには観光名所である旭山動物園があります。四季に合わせ、ご利用者の意向を伺いながら、職員が色々と企画して外出し、冬は外出が難しいので屋内行事を行い、メリハリをつけながら楽しく生活していただいています。個々のかかりつけ医や当グループホームの医療連携機関及び歯科往診等と連携をとり、安心して過ごされるよう取り組んでいます。ご利用者の身体的・精神的状況に重点を置き、個別にケアを行うことで残存機能の現状維持・向上を図れるよう努めています。地域包括支援センターや北海道認知症グループホーム協会及び行政等の研修に参加し、情報共有や職員の質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点	
-------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念である『ご利用者とともに、生きる力と喜びを、地域に安心と信頼の輪を、私たちは常に可能性を追求します』を、毎朝ミーティング終了後に職員全体で唱和し、実践につなげています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で町内会の委員の方に参加していただき意見を伺ったり、廃品回収の協力に加え、本年度より老人クラブの活動に少人数ながら参加もしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会の委員の方に参加していただき当グループホームの状況説明の中で、認知症の症状(特にBPSD)の事とその対応について話させていただいている。また、最近の高齢者福祉の状況についても話させていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た内容について、特注すべき点があれば業務推進会議で職員に報告しサービスの向上を図ったり、ご利用者の意見反映から行事等を計画したりしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染症や運営上不明な点、事故発生時の報告等電話による確認や報告及び文書報告を行い、連携に心掛けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中帯は、重度の帰宅願望の方に対し様々な対応をしたものの、有効策がなく、こちらのユニット玄関は施錠しているが、もう片方のユニットの玄関は出入りが自由に出来る様開錠している。夜間帯は防犯の観点から両ユニット施錠している。 身体拘束については、現状でそのようなケースが発症していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	任意であるが、職員への研修参加を助成し、重要性や知識向上に努めている。また、職員同士でもチェックを図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	任意であるが、職員への研修参加を助成し、重要性や知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご利用者やご家族に対して十分に説明を行い、入居や退居される際の不安やトラブル除去に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの玄関にご意見箱を設置している。苦情相談受付窓口(苦情解決責任者含む)を掲示している。また、ご利用者やご家族からの要望等があれば業務推進会議や、担当者会議等で反映を図っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とコミュニケーションを図れるよう努め、業務推進会議等で意見や要望を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態や能力に応じて、雇用形態(パートから准職員及び准職員から正規職員への登用)を考慮している。部分的に人事考課制度を取り入れている。一部の資格取得の助成制度を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	任意であるが、外部研修への参加に取り組み、要参加費の場合は助成している。就業しながら資格取得(介護福祉士・介護職員初任者研修等)の為、試験や講習参加が可能ないように考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の研修に参加し、同業者等の交流の場を作り、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で、ご利用者より要望等の話を十分に聞き、安心感が持てるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接で、ご家族より要望等の話を十分に聞き、安心感が持てるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族への相談では細かい部分まで傾聴し、ご希望があれば施設見学等も行い、必要なニーズを支援していけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介助や業務の中でもコミュニケーションとして会話等を行い、その中でご利用者の想いや意思を引き出すよう心掛けている。その反面で特定の方が多くなってしまいがちな部分もある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に飲み物等を提供し、その際にご利用者の近況を伝える等工夫している。その中でご家族が不安に思っていることやこれまでの習慣等聞き出し、その後の介助や声掛けに活かしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部利用者（BPSD対応困難者）の外出を除き、気兼ねなく外出、外泊、面会等が出来るよう努めている。また、敬老会や新年会では、行事としてご家族を招いて会食や談笑できる場の提供に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや体操等は、集団で全員そろって行うよう努め、交流できるように配慮している。 ご利用者間での口論等あり、職員が早期仲裁に入っている。また、その内容を職員全体で共有し、全体で問題対処に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され契約終了となっても、ご家族より気軽に相談できる場になれるよう努めている。入院に伴い退居(GH復帰不可)であってもお見舞いに伺い、ご家族への相談等にも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者個々の希望全てに対してサービス提供を行うことはなかなか出来ないが、コミュニケーションを図りながら可能な限り意向に近づけられるよう、アセスメントやカンファレンス、業務推進会議等で検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接やアセスメントに把握を行っている。また、詳細等のご利用者やご家族とコミュニケーションを図りながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録票にて記載され、情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、状態変化があった場合はその都度対応し、業務推進会議やカンファレンス等で検討し、介護計画や業務試行に反映を図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や連絡ノートを活用しながら、ケア内容や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望を把握し、可能な範囲内で柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当グループホーム地域にある老人クラブの活動(カラオケ)に参加者は限られるが可能な限り参加できる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者及びご家族の希望や要望に沿ったかかりつけ医の受診や、医療連携機関医師の往診、同看護職員による健康チェック、歯科往診の利用の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームに看護職員の配置はないが、ご利用者の体調異変時には、その都度医療連携機関に報告、指示受けを行い適切な対処を行っている。昨年11月より医師の変更があったものの、医療機関の変更はなく、引き継ぎも順調に行われていたことから混乱はなかった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医及び医療連携機関と連絡を密に行い、状態把握(定期的週1回は入院先へ状態確認を兼ねてお見舞いに伺っている)に努めている。また、職員への状態報告や個人記録に記載し、情報の共有を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する指針を作成し、入居前に説明。重度化した際は、ご家族と医療機関(主として医療連携機関)との話し合いの中で当グループホームの管理者が立会い、ご利用者にとって良い支援に結び付けられるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の一人勤務に不安を感じるが、応急手当や初期対応は医療連携機関の看護職員から指示を受けて対応する。不安な場合は管理者へ連絡し、来訪する形になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練を実施。運営推進会議にて非常時には地域の協力を要請している。災害時に建物が使用不可能な場合、当法人の介護保険施設へ一時避難が可能である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや人格に配慮した言動を心がけている。ただ業務に追われている際に配慮出来ない事もある。また、職員間の情報共有で会話する際に、場所が不適切な事もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護の中でも、ご利用者が自己決定出来る様に、様々な選択肢を用意し、ご利用者の話を傾聴することで自己決定しやすいよう努めている。しかし、自分の意思表出が困難な方へは、職員がその方を勧誘して決めていることも正直ある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活で極力ご利用者のペースに合わせて支援するようにしているが、入浴や食事時間、行事等職員の業務の都合にご利用者の生活を合わせていただいている部分もある。また、BPSDの状況によっては、本人の想いに答えられない現実もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者が自ら服装等選択できる方にはしていたが、出来ない方には、その服への固執がなければ同じ服の繰り返しにならない様配慮しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているものの、ご利用者の希望や好評不評のメニューを委託会社の栄養士伝えることで反映していただいたり、茶碗洗い・拭き等をご利用者と共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に毎日つけることで、食事及び水分摂取量を把握し促していく。拒否が強い方へは、ご家族の協力の下でご本人好みの飲み物を持参していただき、提供している。更に拒否が続く場合は医療連携機関とも話し合い状況によっては、点滴等の医療行為による対応もしていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔清潔が出来る方については声掛けのみになりがちである。介助の方や認知症重度の方には拒絶されることもあるため、時間をおいて再度声掛けするも、更なる拒否があればそのままの場合もある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	移動等支援が必要な方については訴え時にその場で対応しているため失敗も少ないが、訴えない方については、定時や行動周期を見て対応しているものの、すでに失敗していることも少なくない。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のタイミングを記録等から追って対応しているが、水分摂取や運動等から自然排便のタイミングを伺っているが、出ない方も数名おり、医師と相談し下剤に頼ってしまうこともある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者個々のタイミングに合わせてはおらず、こちらで曜日や時間帯を決めているものの、ゆっくり入浴していただけるよう配慮している。拒否される方もいらっしゃるが、時間や日を変更して入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況や要望、本人の体調面を把握し、可能な範囲内で柔軟な対応を行っている。昼間に休まれる方については、時間を決めて休んでいただくことで、可能な限り昼夜逆転にならない様、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報等は個人ファイルに綴り、変更や増減のチェックを行っている。薬のセットを複数回チェックすること、与薬の際には間違いのないように氏名といつの薬かを声に出し確認して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ、茶碗洗い、食器拭き、テーブル拭き等強要することなく、手伝い等していただいている。また、毎日の体操やレクリエーションの中で玉投げ、魚釣りゲーム等行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に花見や紅葉、小グループ外出等外出活動出来る期間で活動している。夏場は外気浴にも取り組んでいる。また、今年度から不定期ではあるが、地域の老人クラブ活動(カラオケ、ストレッチ体操)に不定期ではあるが参加できる方を連れて参加している。ご家族が希望される外出については、ご家族が連れて行くことで自由に外出・外泊していただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預り金として管理者が管理している。過去には一部自己管理出来ていた方もいたが、現在のご利用者は本人からも自己管理に対し後ろ向きである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者個々の居室に電話が設置可能となっているが、現在電話を設置あるいは携帯電話を所持されている方はいない。しかし、当グループホームの電話を利用して(番号かけるのは介助で)ご家族と連絡を取り合う方はいらっしゃる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて装飾を変えている。行事等で撮った写真も壁に展示し、ご利用者同士で「あんなことあったね」と会話したり、ご家族来訪時にご本人や職員と会話するきっかけになったりしている。基本的に共有スペースでご利用者個々人のこだわりの配置(食堂やホールのソファとテーブル)があるので、極力動かさないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを囲んで、1人掛けソファと3人掛けソファを設置し、ゆったり寛げるスペースを設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前に使用されていた馴染みのある筆筒や椅子、花瓶、写真等を持参していただき、安心して落ち着きやすい居室になるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、玄関等に手すりを設置し、移動の際は安全に自力歩行が出来る様に指示していただき、支援している。食器拭きもご利用者自身の役割として自発的に行っている。		

目標達成計画

事業所名 : グループホームゆとり

作成日: 平成27年 3月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員間のミスについては新しい職員が多くなり、職員個々の気持ちに余裕がない際は発言に個人的感情が混入している傾向にある。声掛け合いタイミングについて価値観の相違からタイミングが全体で統一しきれない。	職員間で情報を共有し、良いケアに繋げる。	コミュニケーションの中で必ず相手の顔を見て笑顔で挨拶する。また、互いを認め合い信頼する意味でも相手の失敗を非難せず我を振り返る。職員間で互いに細かく声を掛け助け合いながら仕事を行う。	12か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。